第二話　きっかけ

娘が大学に進学する。春から都心のワンルームに一人暮らしを始める。受験が終わり、安心したのも束の間。今度は家探しや大学の入学手続き、引越しの準備で娘は多忙を極めた。私の手伝おうかという申し出にも、「いい。一人でできるから」と素っ気ない返事だった。

この半年、娘とろくに会話していない。妻に相談しても、あの年頃の子はそんなものよ、と言われて終わってしまう。このまま大して会話もなく親元を巣立っていくのか。その状況を仕方ないと思えるほど私は大人ではなかったし、それを打破する術も持ち合わせてはいなかった。

「ねえ、世帯主ってお父さんのこと？」
ある朝、不意に娘の方から話しかけてきた。どうやら娘は引越しの転出届をスマホでしているようだった。

「そうだけど。すごいな。最近はなんでもスマホでできるんだな」
「お父さん転勤族でしょ？そのくらい今の世の中じゃ常識だよ」

娘は勝ち誇った顔で得意げに笑う。なんてことはない。気を遣って会話しようとしていなかったのは自分の方だったのかもしれない。しっかり者に成長した娘だが、友達よりも早く自転車に乗れるようになったことを自慢していたあの頃と、なにも変わっていない。

「なあ、お父さんも今年転勤なんだ。てっきり市役所に行かなきゃいけないもんだと思ってたんだけど、スマホでできるなら教えてくれないか」
自然とその言葉が出てきた自分に私は安堵した。

「えー。仕方ないな。じゃあ、マイナンバーカード持ってきて」
あまり仕方なくもなさそうに娘が言う。

半年ぶりの会話に思わずこぼれた笑みを、私はもはや隠すことはしなかった。そういえばまだ入学祝を買ってあげていなかった。もう忘れているかもしれないが、一応聞いてみるか。そんなことを思い浮かべながら、私はカード類の入った財布を取りに席を立った。